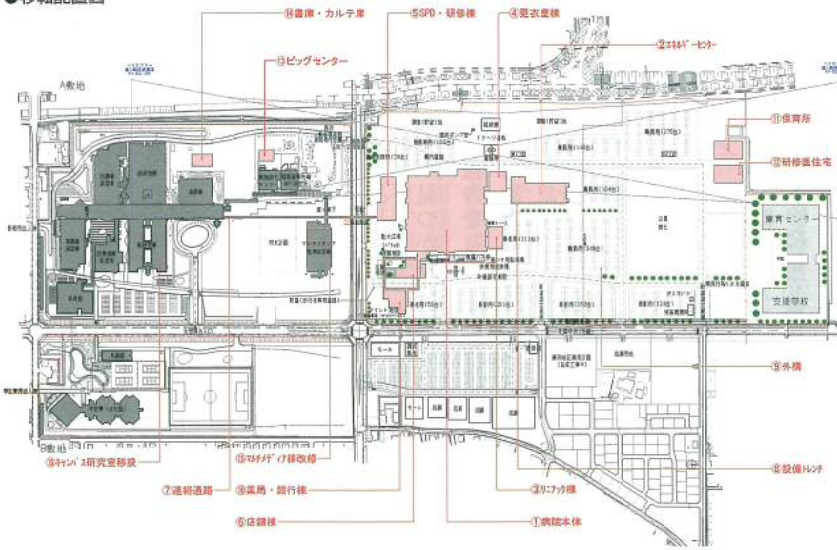


●矢巾新病院の完成予想図(関連記事:小川理事長・学長先生ご挨拶4頁)



●移転配置図



■矢巾新病院/断面構成計画図(案)

		【一般病棟】(東側)									
		医局	緩和ケア病棟				12F				
		医局	一般病棟(13)		一般病棟(14)		11F				
		医局	一般病棟(11)		一般病棟(12)		10F				
		医局	一般病棟(9)		一般病棟(10)		9F				
		医局	一般病棟(7)		一般病棟(8)		8F				
		医局	一般病棟(5)		一般病棟(6)		7F				
		医局	一般病棟(3)		一般病棟(4)		6F				
		医局	一般病棟(1)		一般病棟(2)		5F				
		ISS(機械室)						4F			
		会議室	ICU/CCU/HCU	手術室	医局	外来	透析・リハビリ	手術室	3F		
		会議・研修室	事務・管理	薬剤部	中央滅菌	病理診断	外来	化学療法がんサロン	特殊検査・生体検査	2F	
		研修室	防災・備蓄室	放射線診断・心臓カテ	救命救急	外来	外来	患者サービス	内視鏡	放射線治療	1F
				廃棄物	栄養部		排水機械室			BT1F	

		【統合医療センター(仮称)](西側)	
		精神科/児童精神科病棟	産科病棟/新生児
		NICU/CCU/MFICU	血液・腫瘍/無菌病棟
		救急科病棟/EICU	

【講義・研修棟】	
会議室	会議・研修室
研修室	SPD/リネン

主 陵 会 々 報

発行所
 岩手医科大学主陵会
 〒020-8505盛岡市内丸19の1
 Tel 019(651)5111番
 Fax 019(624)8380番
 E-mail:info@keiryokai.gr.jp
 URL http://www.keiryokai.gr.jp
 題字 三田定則 先生書
 発行人 石川 育成
 編集人 前沢 千早
 印刷所 山口北州印刷

11 月 号

目 次

ご挨拶	主陵会会長	石川 育成
理事長・学長	小川 彰	
教授就任のご挨拶	概要	6 3 2
岩手医科大学入試概要		
医療専門大学院入試概要		
薬学部卒業奨励奨学金奨学生		
学術振興会学術賞・共同研究		
主陵会本部だより		
支部長・参与会		

20	16151310	6 3 2	代議員会・総会
お祝い・ご逝去・編集後記			支部だより
主陵会学生生活動優秀賞			支部同窓会だより
内丸メデイカルセンター開院延期			評議員会・総会
FAXニュース			支部同窓会だより
支部長会・評議員会			総会
6463	6046	35	3021



主 陵 会 会 長 ご 挨拶

主 陵 会 会 長 石 川 育 成

昨晩は恒例の支部長・参与会が開催されました、多くの先生方にご参加いただきました。ありがとうございます。

また、本日は代議員会・総会にご出席をいただきまして、まことにありがとうございます。

後刻理事長兼学長であります小川 彰先生から大学が抱えている万般にわたりご挨拶があると思いますので、私からは平成二十五年度の事業、また平成二十六年年度の事業のあらましを報告いたします。

ご案内のように、昨年度は薬学部第一回卒業生が生まれました。それに伴い役員改選では薬学部卒業生を役員に加えまして、将来の薬学部同窓会設立のための検討を進めてまいるところであります。また、主陵会事務局に薬学部同窓会局というものを設置いたしました。以上が平成二十五年度の主な事業であります。

平成二十六年度も大学の整備、改革、拡充、発展のため、なお一層の協力を進めてまいりたい

と思っております。

もう既にご存じのことと存じますが、県立図書館から重要な文献が見つかりました。これについては会報等にも報告をしていることでございますが、岩手医科大学創立の年をこの文献にもとづいて医学講習所を開設した明治三十年にしたいという議論が上がってきたわけでございます。

このことについては、主陵会の常任幹事会等でもいろいろ議論をし、了承をいただいた上で大学理事会において決定いたしております。

よって、平成二十九年には大学は創立百二十周年を迎えるということになります。これに伴って百二十周年記念事業がさまざまな形で進められると思えますが、主陵会として可能な限りその事業に参画をして協力してまいりたいと思っております。

また、矢巾の新附属病院の建設、そして内丸のメディカルセンター、これについては一体ど

うなっているのだというご意見が非常に多いわけでございますが、この点につきましては、後でご挨拶をいただきます小川 彰理事長・学長のほうから詳しく報告、ご紹介があるのだろうと存じます。

また、近々の話題でございますが、岩手女子奨学会より大学が岩手看護短期大学の経営移譲を受け、ごく近い将来、岩手医科大学の中に看護学部を設置するということも方針として決まっております。

これにより、医学、歯学、薬学、看護学の四学部を有する医科系総合大学として、さらに魅力が増し、周囲の注目も集めることになるだろうと想像しているところでございます。

これらが平成二十五年度、二十六年年度の特に主な事業の概略でございます。これ以上話しますと間違ったりする可能性がございますので、これ以上のことは小川 彰理事長・学長のほうからのお話をご参考にしていただきます。地元にお帰りになってから、各会員によりしく伝達方お願いを申し上げて、挨拶といたします。本日はよろしくお願いを申し上げます。

平成二十六年主陵会代議員会

石川育成主陵会会長挨拶より



ご挨拶

学校法人岩手医科大学 理事長・学長

小川 彰

圭陵会総会に全国からお集まりをいただきまして、本当にありがとうございます。

本学も同窓生が約一万人になろうとしておりますので、そういう意味では歴史ある大学になりつつあるのだらうと思っております。

日頃から圭陵会の代議員、支部長、参与の先生方には大学の運営に関しまして大変ご協力を賜っておりますことをこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

また、大学を思っているなご提言をいただいておりますことにお礼を申し上げますとともに、いただきましたご提言をできる限り大学の方針の中に組み込んでいきたいと思っております。

先程、石川会長からもお話しがございましたように、総合移転整備計画につきましては社会情勢等々の絡みもございまして、毎月、毎月どんどん変わっていつていくというのが現状であります。最新の情報としてこのあたりが議論されているのだということも含めましてお話しをさせていただきますと思います。

○本学の創立の年について

本学は、明治三十年の私立岩手病院医学講習所の開設から、現在百十七年になつております。

同講習所は明治三十四年に、国が認める私立岩手医学校になり、その後、同校は全ての医学校は医学専門学校にならなければならぬというハードルが極めて高い制度改革により、一時期廃校の憂き目を受けましたが、昭和三年に岩手医学専門学校として再発足し、戦後、岩手医科大学に昇格をして現在に至っております。

その歴史の中で、「本学の創立の年」を岩手医学専門学校発足の昭和三年としてまいりましたが、数年前に、岩手県立図書館から三田俊次郎先生が明治四十年に編纂された「岩手病院、岩手医学校、岩手看護婦養成所、岩手産婆学校及びその他の事業十年間経営概況報告」が見つかりました。その内容は、明治三十年四月に岩手県から旧岩手病院の敷地、建物の全てを借り受けて私立岩手病院、岩手医学校、岩手看護婦養成所、岩手産婆学校等を設立して十年経つので、その概要を報告するというものであり、この中に明治三十年から医学生、看護学生、産婆学校生が何名学んでいったという明確な記載があったことから、本学のルーツはこの明治三十年にあるということ、創立の年を明治三十年に改めるということ、昨年の圭陵会代議員会・総会でご提案を申し上げ、皆様のご意見を伺った上で、岩手医科大学の理事会でこれを決定いたしました。

たしました。

この報告書を見ますと、本学の創始者である三田俊次郎先生は、明治三十年に医学講習所を開設しましたが、その時代に既にチーム医療を考えていたわけでありました。国が産婆規則を制定したのが明治三十二年ですから、これよりも二年も早い時期に産婆学校を、また大正二年に看護規則が制定されましたのでその看護規則制定のはるか前に看護婦養成所をこの岩手に開設していたわけで、この三田俊次郎先生の先見性にはただただ頭が下がるだけでございます。

これこそ今の日本が大声で騒いでいるチーム医療の原点だっと思っております。

さて、明治三十年にどのような医学校があったかと申しますと、東京帝国大学そして旧制第一から第五高等学校まで、また府立と県立医学校が三校と、合わせて官立の養成所が九校、私立としては明治時代に八千人の医師を養成したと言われ、野口英世も学んだということで大変有名な済生学舎、高木兼寛がつくった成医会講習所をベースにした東京慈恵医院医学校、また明治三十三年には東京女子の前身である東京女医学校が出来ておりますが、地方には私立岩手医学校と私立熊本医学校しかなかったわけであり、こういう時期に地方に私立の医学校をつくり、医学教育を目指していたということも驚愕すべきことであります。

このように、明治三十年から医学講習所に医学生が学んでいたということが明らかになったことから、本学の創立の年を明治三十年に改めるということでありました。

これにより、創立百二十周年を平成二十九年に迎えることとなりました。